

令和8年度 第 1 回学校運営協議会 議事録

日 時 令和8年 7 月8日(水) 14:30～16:30

場 所 大阪府立清水谷高等学校 会議室

出席者

学校運営協議会委員	柴 浩司	出席
	須藤 隆二	出席
	西田 清盛	出席
	東野 敏夫	出席
	岡原 慶輔	出席
	元山 千賀	出席
校長	竹内 伸一	出席
事務局	林 拓磨	出席
	太居 豊	出席
	納江 良子	出席
	高田 雄	出席
	網 真明	出席
	西浦 珠代	出席
	前田 理	出席
	伊藤 智則	出席
	芦田 洋子	欠席
	酒井 勇太	出席
	段野 光宏	出席
	寺田 義和	欠席

(敬称略)

1. 委員・事務局より自己紹介

2. 校長より挨拶

3. 資料の確認

4. 会長の選任

事務局からの推薦で、柴委員に会長を、須藤委員に副会長を引き受けていただいた。

5. 学校経営計画及び学校評価について

校長より、学校経営計画及び学校の現状について説明があった。

【主な内容】

- ・本校の強みとして、生徒・保護者アンケートで高い満足度を得ている。
- ・「学習活動」「学校行事」「部活動」の三本柱を重視している。
- ・普通科高校として幅広い学びを大切にしている。
- ・DX ハイスクール事業等を活用し、ICT 環境の充実を進めている。
- ・リベラルアーツを重視し、探究的な学習を推進している。
- ・体育祭、文化祭等の学校行事を活発に実施している。
- ・生徒自治会を中心に、生徒の意見を取り入れた学校づくりを進めている。
- ・幼稚園・保育園・小学生との交流など地域連携活動を実施している。
- ・中学校や学習塾への情報発信、公開授業、学校説明会等を通じ広報活動を強化している。

【委員より質問】

- ・「普通科としての特色」という表現がやや分かりにくい。清水谷高校の特色として前面に出した方がよいのではないか。
- ・「ハイブリッド授業」とはどのような意味か。

【校長より返答】

- ・ハイブリッド授業とは、一般的には、対面授業とオンライン授業を同時に行う授業である。今回、「ハイブリッド授業」という言葉を使ったが、単に ICT を使用することではなく、ICT 活用と従来型の学習方法を組み合わせる授業を意味している。タブレット活用、パソコン活用などICTを活用することの教育効果は高いが、一方で、従来、行ってきた、ノートに書く学習や対面での話し合いも重要であると思っている。両方の良い面を必要に応じて使い分けながら、質の高い授業をめざしている。
- ・清水谷高校は、普通科単一設置校として、学習・行事・部活動をバランスよく経験しながら成長できる点にある。普通科としての特色は、幅広い学習を行うこと、特にリベラルアーツの学びや、総合的な探究の時間等も本校の特色にしている。

6. 昨年度の進路状況と今年度の進路指導の取り組みについて

進路指導主事より進路状況について説明があった。

【主な内容】

- ・78 期生は国公立大学合格者 44 名。
- ・大阪公立大学合格者 10 名。
- ・関関同立への進学実績も例年並み。

- ・浪人生は約 10%である。
- ・進路インタビューを実施し、生徒の進路意識の把握に努めている。
- ・大学名だけでなく、「大学で何を学ぶか」を重視した指導を行っている。
- ・進路ニュースや Google Classroom 等を活用して情報提供を進めている。
- ・教員志望者向けイベントなど外部の学習機会も積極的に紹介している。

【委員より質問】

- ・浪人生が増加している要因は何か。
- ・浪人生が多いのは全国的な傾向なのか、それとも本校特有のものか。

【進路指導主事より返答】

- ・浪人生増加は本校だけでなく全国的な傾向である。本校の浪人生は自身の目標をしっかりと定めて頑張っている者が多く、学校としても前向きにとらえている。
- ・共通テスト難化の影響により志望校選択が変化したため、浪人生が増えたと考察している。
- ・本校では妥協せず目標校に再挑戦する生徒も多い。

7. スタディサポートの結果について

進路指導主事より、スタディサポートの結果分析について説明があった。

- ・スタディサポートのデータを用いて、生徒の学習習慣と進路実現との関係を分析した。
- ・学習時間や家庭学習の状況等のアンケート結果と学力状況をあわせて検証した。
- ・入学時の学力だけでなく、高校入学後の学習習慣や努力が進路実現に大きく影響していることが確認できた。
- ・上位層だけが進学実績を支えているのではなく、中間層からも国公立大学等へ進学する生徒が見られる。
- ・本校の教育活動を通して学力が伸長している生徒が一定数いることが確認できた。
- ・生徒には、継続した学習習慣を身につけることの重要性を伝えている

【委員より質問】

- ・学習習慣と進路実現との関係について分析結果をわかりやすく説明してほしい。
- ・2 年次の成績の伸び悩みをいかに減らすかが肝要である。

【進路指導主事より返答】

- ・学習習慣が安定している生徒ほど進路実現につながる傾向が見られる。
- ・入学時の学力だけでなく、高校入学後の努力によって進路成果を上げている生徒も多い。

8. 新入生アンケートについて

首席よりアンケート分析結果について説明があった。

【主な内容】

- ・第一志望入学者は約 86%。
- ・公立高校を志望する時期が遅くなっている傾向が見られる。

- ・2月に学校選択を決める生徒が増加している。
- ・公立高校内の比較対象校の説明や私立併願校として選ばれている高校について説明。
- ・オープンスクール参加者から継続的に入学者を確保できている。
- ・ホームページや学校説明会が学校選択に大きく影響している。

【委員より質問】

- ・文化祭は中学生にどのように案内しているのか。
- ・文化祭も広報面で重要な役割を果たしているため、新入生アンケートの項目の中に入れた方がよい。

【首席より返答】

- ・文化祭については広報等で周知し、中学生の参加につなげている。
- ・文化祭も非常に重要な広報機会となっている。
- ・今後も学校の魅力を直接伝える機会を充実させたい。

9.その他

【委員より質問】

- ・学校教育における部活動の意義は大きい。今後も部活動を大切にしてほしい。
- ・楠、および、桜の樹木の状態について心配している。全国的に病害の事例も報告されているため状況を確認したい。
- ・今年度入学生の特徴や様子について知りたい。男女比や制服選択の状況はどうか。

【事務長、および、首席より返答】

- ・クスノキについてはR3年度に点検を実施している。落葉が多く木が弱体化しているのではないかと指摘もあることから、近々、点検できるように計画中である。また、業者委託により除草や薬剤散布をしているが病虫害の報告はなく、定期的な管理は継続して行っている。
- ・今年度は男子生徒の割合がやや増加している。
- ・女子生徒はセーラー服の選択が多いが、ブレザーを選択する生徒も一定数いる。
- ・男子生徒はほぼブレザーを着用している。

10.次回 2026 年 11 月 26 日(木)